

二〇二五年度

普連土学園中学校 入学試験問題

二〇二五年 二月二日実施

国語

二日午後二科

- 一、問題に答える時間は五十分です。
- 二、問題は、問題一 問題五 まであります。
- 三、答はすべて、「解答用紙」に記入しなさい。
- 四、「解答用紙」は中に二枚はさんであります。



# 問題一

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

ある落語家が、新聞におよそ次のようなことを書いていました。

落語というものは、聞いてくださる方たちの想像力が頼りなのです。

ですから、その想像力にうまく訴えなければ、先へ進むことができません。

なかには、想像力が不足している方もいらっしやいまして、<sup>①</sup>できるだけ所作で刺激したり、扇子などを使ったりするわけです。

噺家は、顔の向きを左右にうごかしたり、表情や声をかえたり、扇子を使ったり、要するにいろいろとジェスチャーをまじえながら、観客の「想像力」に訴えかけながら、語ります。

それで思い出すのは、古典落語「井戸の茶碗」。

江戸時代の正直一徹の\*くずやのはなし。

「井戸の茶碗」というのは、朝鮮の美麗茶碗で、雑な茶碗でした。ところが日本では、茶人にこのまれ、珍重されるようになり、名器とされるものが出現しました。

江戸時代、麻布の茗荷谷にくずやの清兵衛さんとよばれる人がいました。たいへんな正直者で、まがったことが大嫌い。

まがったものを見るだけで、腹がたつ。路地をまがるのも、ほんとはまがりたくない。けれども、路地に入らないと商いが成り立たない。

まわりから、正直清兵衛とアダナされていました。毎日、朝早くから一日いっぱい働く人でした。

ある日、(現在の東京港区にある)清正公様のわきで呼び止められて、くずを買う。そのおり、ついでに仏像をぜひ買ってくれと<sup>a</sup>せがまれる。今は\*浪人の元武士らしいその男から、生活にこまっても二百\*文いるといわれる。くずも

の以外は買ったことがないくずやは、その仏像を預かることにする。

「じゃあ、こういたしましょう。この仏像をね、二百文で預かりましょう。それより高う売れたら、その半分をこちらにお届けにあがります」

そうして、細川屋敷のおもて長屋にくと、二階の窓から呼び止める者がいる。

（長屋と聞いて想像できませんか。江戸時代の集合住宅。アパートです。）

「その方のかついでおる籠のなかに、なにやら仏像のようなものがはいつておるが、それはなんだ」

「へえ、仏像でございます」

「おお、なんでできておるのだ。じつは、仏壇をこしらえたが、仏像がない。もし氣にいれば、それを買いたい」ということになり、三百文で売買が成立。

買った武士は、そのすすけた仏像を、塩で清めて、ぬるま湯であらう。すると、お腹から小判がでてきた。ぜんぶで五十両。

「拙者はこの仏像を買ったが、なかの小判は買ったおぼえがない。仏像を売り払うくらいだ、持ち主はさぞかし暮らさむきもよくないであろう。もとの持ち主にかえしてやりたいが、さて、どうしたものか」

そこで、例のくずやが窓下を通るのを、待つことに。

何日かたって、ついにそのくずやがあらわれる。

くずやは、細川の家臣・高木佐久左衛門と名乗る武士から、五十両をあずかり、浪人のところへ届けに行く。

「あ、いやいや、そのようなことをせんでもよい。そちらにしまっておきなさい」

「いいえ、あたくしの気がすみませんから、どうぞこれはおさめてくださいまし」

⑥ 押し問答のすえ、浪人はすべてを受け取り、感謝のしるしに、茶碗を武士にプレゼント。

その茶碗がまわりまわって、殿様のお目にかない、専門の鑑定家の鑑定の結果、「井戸の茶碗」という名器と判明。殿様に三百両で買い上げられることになります。

その半分の一五〇両が浪人の元にとけられ、浪人はその金を受け取るかわりに、娘を武士に\*娶ってもらうことに。浪人は娘の嫁入りのしたく金として一五〇両を使い、その武士の元に娘をとつがせる。

② 万事めでたし、めでたし。

③ この落語の最後の\*オチは、くずやと武士の会話になっています。どちらがくずやで、どちらが武士か、想像してみてください。

「そうなさいよ。けっこうなことですよ。そりゃあ今はね、長屋にいますから、ちよいとくすぶってますがね。こちらにつれてきて、みがいてごらんなさい、いい女になりますよ」

「いやあ、みがくのはよそう。また小判が出るといけない」

「井戸の茶碗」のあらすじを急いでたどりましたが、これでは、名作の味がわずかしかな伝わりません。\*志ん生か志ん朝の名演をぜひお聴きください。

ぼくがここに紹介した意図は、登場したくずや、浪人、武士たちの人間らしさ、その人情の機微の美しさが、「④ 相手を思いやる豊かな想像力」に支えられていることを、わかっていただきたい点にあります。

人間が動物とちがう点。相手を思いやる心、胸打つ人間らしさが奈辺(どこ)にあるか、それをしかと捉えてほしいと願うからです。

自分がこんなことをされたらどんな感じがするか。立場を逆にして、相手の立ち位置にたつて、想像してみることの大切さ。宮本武蔵がしたように、「いったん立ち止まって、相手の立場から自分を見つめる」。そして想像力をフル回転させる。反対に、人間らしい想像力が貧しいと、どういうことになるでしょうか。

人のものを盗る、人をいじめる、だます、殴る、殺す……、これはもう、人間のすることではありませんね。

さて、想像するということは、なにも落語を聴く時とはかぎりません。まんが、童話、小説を読む時、テレビドラマ、映画を見る時、「想い描く力」が足りない、ストーリーをたどることができなくなります。

日常生活においても、想像力が欠けていると、おもわぬことが発生します。

たとえば、ここにくずかごがあります。紙くずを捨てる分には問題ありませんが、ケーキとかクリームで汚れた紙を捨てたします。籠がいっぱいになってゴミに出すまでに一か月もあつたら、くずかごにアリが来るかもしれせん。ゴキブリ

がひそむかもしれません。それを想像できる人は、べとべと汚れた紙を、そのまま捨てるようなことはしませんね。アリやゴキブリがたかるのを想像できるかできないかは、算数や数学の問題が解けることとは、関係ありません。苦労は金を出してでもするものだ、といいます。

「なんでも見てやろう」と、<sup>⑤</sup> 外国までひとり旅に出た人がいました。

人間を観察して、人生とは何かを、自分の目で確かめてみようというわけです。経験が豊かであれば、想像力はそれだけ豊かになります。ですから、みなさんも広い社会に出て、たくさんを経験をつんでください。

人間らしさの代表格である「やさしさ」「思いやり」「隣人愛」といわれるものは、考えてみれば、みんな想像力の賜物<sup>たまもの</sup>といえるでしょう。

異国の人がなれないバスに乗っていて、降りるべきバス停にいつ着くかわからず、キョロキョロと窓外を見やっている時、その外国人に、

「何か、お困りのことがありますか」

と尋ねるのは、Xと想像することから生まれるのです。人間らしい想像力が、そういう言

葉をかけさせるのです。それが人としての自然な振る舞いではないでしょうか。

このように見てくると、考える際にものをいうのは、「豊かな想像力」、いうなれば「全人的な想像力」ではないか、と考えられます。

想像力が豊かであればあるほど、人の悲しみがわかり、思いやる心が育つのではないのでしょうか。

数学者の岡潔<sup>おかきよし</sup>は、「情緒<sup>ちよ</sup>」がいちばん大事だといっていました。

「人にとって大切なのは知・情・意と感覚で、それらは液体のようなもので混ざりあっている。それをわたしは情緒とよんでいる」

「情緒を大事にすれば、人の悲しみがわかるようになり、慈悲<sup>じ</sup>の心が育ち、優しくなれるし、恥<sup>は</sup>じらいの感覚がやしなわ

れる」

「恥じらい、羞恥心しゆうちがなくなれば、人は人でなくなる」

聖路加国際病院の院長・日野原重明はキリスト者にふさわしく「人を赦ゆるすこと」を第一にあげていました。そして「世の光となる」こと。

モンテニユは「寛容かんの精神」を強調しました。

みんな豊かな想像力の賜物です。

(小島 俊明としはる『ひとりで、考える——哲学する習慣を』 岩波ジュニア新書)

〈注〉くずや……紙くず・ぼろ・古綿などの廃品はいを売買する商売をする人。

文……昔の通貨の単位。

浪人……主君を離はなれて禄ろく(給与)を失った武士のこと。

娶むかる……妻として迎えること。

オチ……人を笑わせるような結末。

志ん生か志ん朝……「志ん生」と「志ん朝」は、ともに名人と言われている落語家。

問一 〓線部①「せがまれる」・②「押し問答」の文中での意味として最も適当なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

① せがまれる

- ア 判断を迫られる
- イ 責められる
- ウ 無理に頼まれる
- エ 提案される
- オ とつちめられる

② 押し問答

- ア 対立する双方が譲り合って一致点を見いだすこと
- イ 互いの主張がすれ違い、打開策がないこと
- ウ 互いの意見が対立し、話し合っても意味がないこと
- エ 質問を想定し、それに対する模範回答を用意すること
- オ 互いに自分の立場を主張して、あとにひかず言い争うこと

問二 〓線部①「できるだけ所作で刺激したり、扇子などを使ったりする」とありますが、噺家は落語を演じる時にどうしてこのようなことをするのですか、答えなさい。

問三 〓線部②「万事めでたし、めでたし」とありますが、落語「井戸の茶碗」において、めでたい結果に含まれるものとして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア くずやが、くずではない「仏像」や「茶碗」を商うことが出来て、その結果、少くない金を得ることができたこと。
- イ 高木佐久左衛門が、「井戸の茶碗」を殿様に買い上げてもらった縁で気に入られ、美しい娘も娶ることができたこと。
- ウ 殿様が、以前から欲しかった「井戸の茶碗」を、清兵衛が機転を利かせたおかげで手に入れることができたこと。
- エ 正直者だが貧しい浪人が、もうう理由のない金を手にすることなく、娘を武士にとつがせることができたこと。
- オ 浪人の娘が、殿様のお目にかない、父のかねてからの願い通りに、高木佐久左衛門の嫁になれたこと。

問四 — 線部③「この落語の最後のオチ」とありますが、落語「井戸の茶碗」の最後の会話のどのようなところが人を笑わせるのですか。その説明として最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 長屋でくすぶっている浪人の娘をすすけた仏像に見立て、みがくように言ったくすやに対して、仏像の時のように娘からでるはずのない小判が出るといけないと武士が応じたところ。

イ 嫁入りのしたく金を一五〇両もかけた娘を自分が娶っていいものかと迷っている武士に対して、くすやが五十両の小判の出た仏像をたとえに出して、みがくようにそのかしているところ。

ウ 長屋暮らしがすっかり身についてしまった娘だが、きつといい女になると見抜いて武士に娶るよう促すくすやに対して、仏像よりも高くつくから嫁にするのをあきらめようと武士が応えているところ。

エ 今でこそ落ちぶれているが良い嫁になると信じて浪人の娘を自慢するくすやに対して、武士が娘から小判が出るといけないと冗談を言って嫁入りをそれとなく断っているところ。

オ 武士の嫁として恥ずかしくない女になるようみがくのすすめる武士に対して、一五〇両の支度金が無駄になるのを心配し「みがくのはよそう」とくすやが応えたところ。

問五 — 線部④「相手を思いやる豊かな想像力」について、次のⅠ、Ⅱの問に答えなさい。

Ⅰ 「武士」から「浪人」に対して、「相手を思いやる豊かな想像力」が読み取れる会話の一部を五十字以内で抜き出し、その最初と最後の五字を答えなさい。

Ⅱ 「相手を思いやる豊かな想像力」はどのようにすることで養われますか、——線部④より後の文章を参考にして説明しなさい。

問六 ――線部⑤「外国までひとり旅に出た人がいました」とありますが、筆者はなぜこのような例を挙げたのですか。最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 外国でのひとり旅で苦しい経験をするのが、人を思いやる心を育むと考えたから。

イ 外国でのひとり旅を通して得た経験が、その人の想像力を豊かにすると考えたから。

ウ 外国を一人で旅した経験が、人生とは何かという哲学的な問いに答えを与えてくれると考えたから。

エ 外国を一人で旅することができたという自信が、広い社会へ一歩を踏み出す勇気を生むと考えたから。

オ 外国でのひとり旅を通して人間を観察することが、後の人生に有用であると考えたから。

問七 文中の X に入るのに最も適当な言葉を次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア その外国人に日本語が通じていなさそうだ

イ その外国人はどこから乗ってきたのだろう

ウ その外国人が困っていそうだ

エ その外国人の目的地はどこだろう

オ その外国人と仲良くなれそうだ

問八 文章全体を通して、筆者の言いたいこととして最も適当なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

ア 人間が動物と異なり人に優しくなることができるのは、しぐさだけでなく言葉によって情報を伝達し意思を伝え合うコミュニケーション能力があるからである。

イ 人に想い描く力が十分備わっていないと、落語や小説のストーリーを追うことができなくなるだけでなく、日常生活においても他人に迷惑わづをかけてしまうことがある。

ウ テレビドラマや映画において、登場人物の心の微妙な動きを感じることができるかどうかは、それを観る人の人生経験の深さによるのである。

エ 人に恥じらいの感覚が生まれるのは、知・情・意と感覚が混ざりあつて人の悲しみがわかることで、慈悲の心を持てるようになるからである。

オ 人間が動物と違うと言えるのは、豊かな想像力を持つことができるからであり、それによって人の悲しみを自分のものとして感じたり、人を思いやることができるのである。

問題二

次の文章を読み、後の問に答えなさい。

問題二は、著作権の関係で公開出来ません。

問題三

次の①～⑩の――線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ直しなさい。

- ① 二〇二四年十月一日からユウビン料金が値上げされた。
- ② この包丁は切れ味が悪くなってしまったから、トがなければならない。
- ③ いよいよ本番が近づいてくると、キモがすわってきたようだ。
- ④ 総選挙後、直ちにソカクを行わなくてはならない。
- ⑤ オウジヨウギワ悪く、彼女への想いを断ち切れない。
- ⑥ 子どもの健やかな成長が一番の願いだ。
- ⑦ 住所を書き損ねて、はがきを一枚むだにってしまった。
- ⑧ 彼女の日和見的な態度はあまりよろしくない。
- ⑨ 幕府による厳しい支配が、長期政権を可能にした。
- ⑩ 私たちの祖先の努力によって、この土地がひらかれた。

問題四

次の①～⑩の文の空欄に入るのに適当な語を後のア～シから選び、記号で答えなさい。

- ① 生活指導の先生は [ ] 顔つきだが、実は優しい。
- ② 計画を立てず [ ] 努力しても成果は得られない。
- ③ 相手の体当たりを受けて、 [ ] 背中を打った。
- ④ 誰にも話すことができず、 [ ] 思いに沈む。
- ⑤ [ ] 数の虫に追いかけてられている。
- ⑥ あと少しのところで優勝をのがして [ ] 。
- ⑦ 発掘作業を見学し、歴史の一端を [ ] 。
- ⑧ 彼女はほめられて思わず [ ] 。
- ⑨ 信頼できる人だけに本音を [ ] 。
- ⑩ 話し合いの結果、最終的な判断を人に [ ] ことになった。

- |   |       |   |         |   |       |   |       |   |       |
|---|-------|---|---------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ア | はにかむ  | イ | おびただし   | ウ | ほのめかす | エ | やみくもに | オ | やるせない |
| カ | ゆだねる  | キ | ためらう    | ク | かいまみる | ケ | したたかに | コ | うなだれる |
| サ | いかめしい | シ | いやおうなしに |   |       |   |       |   |       |

問題五

次の文章の①～⑩に入れるのに適当な四字熟語を後のア～スから選び、記号で答えなさい。

ある日、私たちの学校でサッカー大会が開かれた。私たちは①練習し、一ヶ月前に大敗したチームを倒すために、全員が一丸となつて準備してきた。

試合が始まると、やはり相手チームが強く、私たちは②しながらも必死に戦った。当初失点が続いて得点できず、私は心が折れそうになったが、みんなが③に「まだまだ追いつけるぞ！」と励まし合いながら、取られても取り返そうと、④の精神で頑張りを続けた。キャプテンのタケルが「もうちょつと状況に合わせて、⑤に動こう！」と皆を励まし、私たちは相手に合わせて戦術を変えながらプレーを続けた。

試合が進む中、私たちも得点して⑥の接戦となり、最後まで緊張した状態が続いた。でも、これまで練習を積み重ねてきたチームの仲間達とは気持ちが通じ合つて⑦で連携できたからこそ、最後に見事なゴールを決めることができたのだと思う。

試合終了後、私たちは苦しんだ末に得た勝利の喜びでいっぱいになり、⑧だった。先生も「きみたちの成長速度は⑨だね！」と褒めてくれて、とても嬉しかった。

試合からの帰途、私はその日一日を振り返り、積み重ねた努力の大切さを実感して、これからも失敗を恐れず、不平不満を口にするこなく、⑩で努力を続けようと決意した。

- |   |      |   |      |   |      |   |      |   |      |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ア | 異口同音 | イ | 悪戦苦闘 | ウ | 大言壮語 | エ | 感慨無量 | オ | 有名無実 |
| カ | 七転八起 | キ | 以心伝心 | ク | 臨機応変 | ケ | 日進月歩 | コ | 不言実行 |
| サ | 本末転倒 | シ | 五分五分 | ス | 一生懸命 |   |      |   |      |

(以下余白)